

■ 英文法道場主 飯田康夫先生 セントメプレス名誉学長就任



出身校 東京大学文学部フランス語
フランス文学科卒

ご挨拶

約40年にわたって関東圏の最大手予備校で教壇に立ち続ける私が名古屋の「セントメプレス」にまで出向して「集団指導」のみならず「個別指導」をお引き受けするのは、一重に中野学長の教育に対する並々ならぬ情熱に惹かれたからにはほかありません。塾生諸君と夢の実現に向けて、中野学長および精鋭講師陣の皆さんとともに力を尽くしてまいります。

プロフィール

予備校講師として数年のminor経験の後、majorの駿台で39年目になる今年も現役続行中。夏期・冬期の個人講座「英文法道場」を開講して25年超。学参執筆はデビュー作の「なるほど英文法」(朝日出版)に始まって、現在は「パターンで覚える 英作文 頻出文例360」(桐原書店)に加えて、「英作文 基本300選4訂版」、「英作文 基本300選 併用問題集(4訂版対応)」、「英文法 基本300選」、「英語構文 基本300選」、「英文法道場 正誤・整序問題300選」(以上駿台文庫)の300選シリーズが絶賛活躍中！愛称は『道場主』。

■ 数理哲人による 新春番外編特別講義 闘う数学・炎の講義



プロフィール

覆面の貴講師:数理哲人(すうりてつじん)
学習結社・知恵の館から送りこまれてきた覆面の貴講師。学力低下を阻止する任務を帯びた、数学の仮面。「闘う数学・炎の講義」をモットーに教歴30年あまりの間、大手予備校・数理専門塾・高等学校・司法試験予備校・大学・震災被災地などの現場に立ち続ける「平成の遊歴算家」(旅する数学者)である。2012年、2013年、2016年の3回にわたり国際数学オリンピックメダリストを輩出する。数学・物理・英語・小論文といった科目での著作・映像講義作品をもつ。現代数学社『現代数学』および、プリバス『知恵の館文庫』などで執筆・言論活動を行っている。

2018年 1月31日(水)

講義内容	正統派・王道の学習	19:00~21:00 (次期受験生対象)
対象	医学部&難関大を目指す高2生・高1生・保護者様対象	
費用	無料	
定員	30名	
会場	ホテルウイングインターナショナル名古屋 1F会議室 (地下鉄伏見駅徒歩4分)	
お申込み	セントメプレス(052)733-3234	

プリティ中野のモノローグ

新たな年が始まり受験生は勝負の時を迎えました。セントメプレスは最後の結果が出るまで講師スタッフ一同総力を挙げて受験生をサポートし彼、彼女の夢を実現します。したがって新規生徒の募集業務に回す時間はありません。そこでセントメプレスを支持していただける皆様に例年通りお願いがございます。どうか新入生をご紹介ください。今月末の数理哲人講演会出席者のご紹介もありがたいです。そのようにご協力いただけましたら私たちは心おきなく今の受験生へのアシストに全力を尽くすことが可能となります。勝手なお願いで誠に恐縮ですが何卒よろしくお願いいたしますm(_)_m

■ センター後の過ごし方

当校のチューターがセンター後にどのように過ごしていたのか…… 受験生の皆さん、参考にしてください。

一日の流れ

7:00	起床
7:30	出発
8:00	予備校へ到着
8:30~12:00	二次対策の授業(授業のない日は自習)
12:00~13:00	昼休み
13:00~17:00	自習
17:00~17:30	夕休み
17:30~22:00	自習
23:00	帰宅
翌1:00	就寝

※時間はアバウトなのでやや前後にずれがあります

センター云々に関わらず、ほぼ一年を通して月曜日から土曜日は上のような生活をおくり、日曜日は全力で休養を取りました。書き出してみても思いましたが今思えばビックリするぐらい勉強しました。ホームルームがあったり、自習や授業の間には休み時間があったりしたので見た目よりは多少勉強時間は減りますが、少なくとも一日に10時間は勉強しました。センター後もだいたい同じように過ごしましたが、さすがに日曜日丸ごと休むのは不安だったので午前だけ自習に行きました。

さて、その腐るほどとった勉強時間で何をしていたかと言いますと、センター後は主に赤本を解いているかと思いきや、そうではありませんでした。覚えるのが苦手だったので、勉強時間の四割ぐらいは自分の知識を補完していく作業をしました。二次試験の科目が数学、英語、化学、生物、国語だったので生物は全範囲、化学は有機化学と無機化学、英語は単語を重点的に見直しました。何回も見直しているのでパラパラ見る程度でしたが結構な量なのでそこそこの時間はかかりました。残りの六割はいろいろな問題(予備校の授業の予習や、他の大学の同じぐらいのレベルの問題など)を解くのに当てました。というのも、私が受ける大学は際立った特徴があるという訳でもなく、ことさらに問題が難しいという訳でもなかったため、その大学に特化した勉強よりもあらゆる方向から知識をアウトプットして定着させるのと、解く問題の量を増やす方が有意義だと判断したからです。二次試験のような筆記試験には、解法を導く能力はもちろんの必要ですが、それに加えて自分の考えたことを答案として採点者に的確に伝える能力が求められます。その練習をできるだけ積むためにも私は上のような方法をとりました。その一環で私立の大学も受けておきました。また、勉強の仕方面で特に気を付けたのは、毎日二次試験に必要な科目全てに触れるということです。どれか一つでもないがしろにしていると、直ぐにその教科は弱体化します。毎日毎日ちよつとずつ積み重ねていくのが重要です。そして、二次試験の二週間前から模擬試験のような感じで赤本を解き、「これならいける」という自信を持って、二次試験に臨みました。

要点としては、体を壊さない程度に出来るだけ勉強時間を増やすこと、自分の得手不得手をよく理解したうえで志望校に対してどのように勉強するのが有効かよく考えて勉強すること、毎日全部の科目に触れること、といったところでしょうか。直前期だからと言って意気込みすぎるのはよくないかもしれませんが、直前期に死ぬほど勉強したから自信を持って本番に臨みました。

